

一 南相馬市歴史文化基本構想（概要版） 一

構想策定の背景と目的

◆歴史文化基本構想とは

文化財の保存活用に関するマスタープランであり、
 地域に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、
 文化財を、その周辺環境まで含めて総合的に保存・活用するための方針を示すもの。

◆構想策定の目的

南相馬市歴史文化基本構想

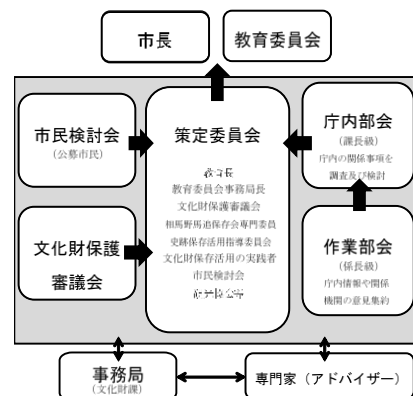
- 地域を象徴する文化財と、その周辺環境を一体的に捉え、その適切な「保存」を図る。
- ふるさと教育の充実や地域の魅力づくりを進めるなどの「活用」を図る。
- 長期的な視野にたって市民が誇りをもつ**地域文化を醸成**する。

学校教育、観光振興、地域コミュニティ再生など
多方面にわたり文化遺産を活用したまちづくりの推進

歴史文化を活かして魅力的な「まち」として復興する

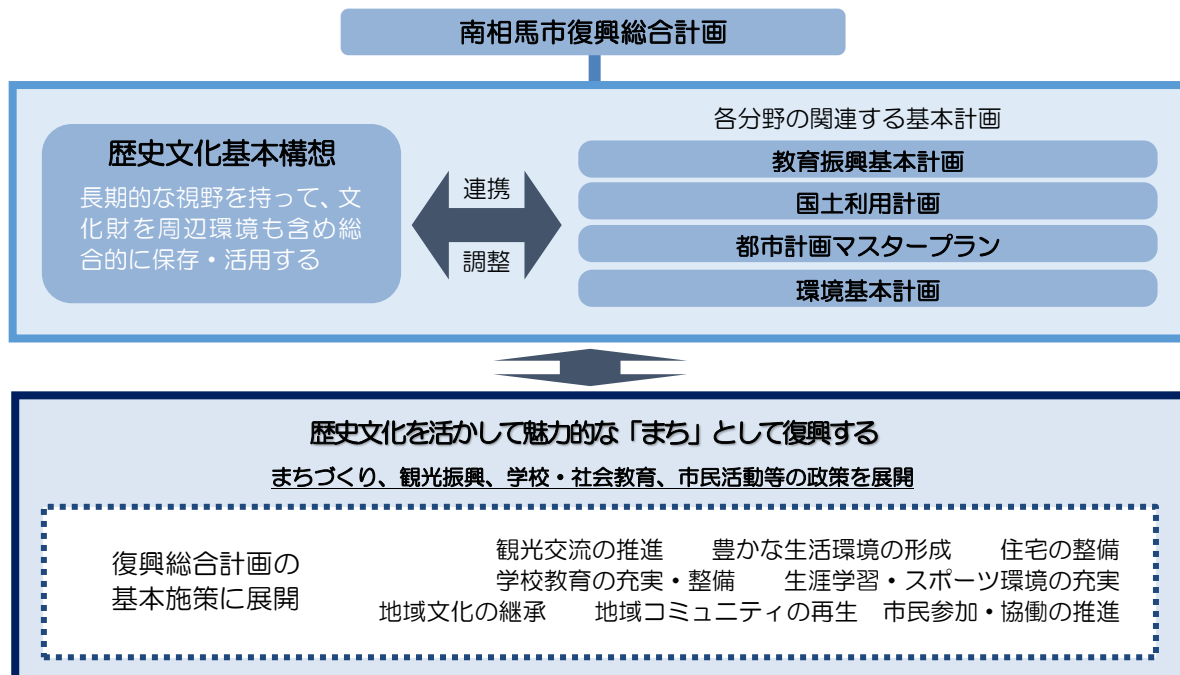
◆策定の組織体制

- ✓ 市民の視点、まちづくり行政の視点、文化財行政の視点を本構想に取り入れるため、下記の組織で検討を行った。



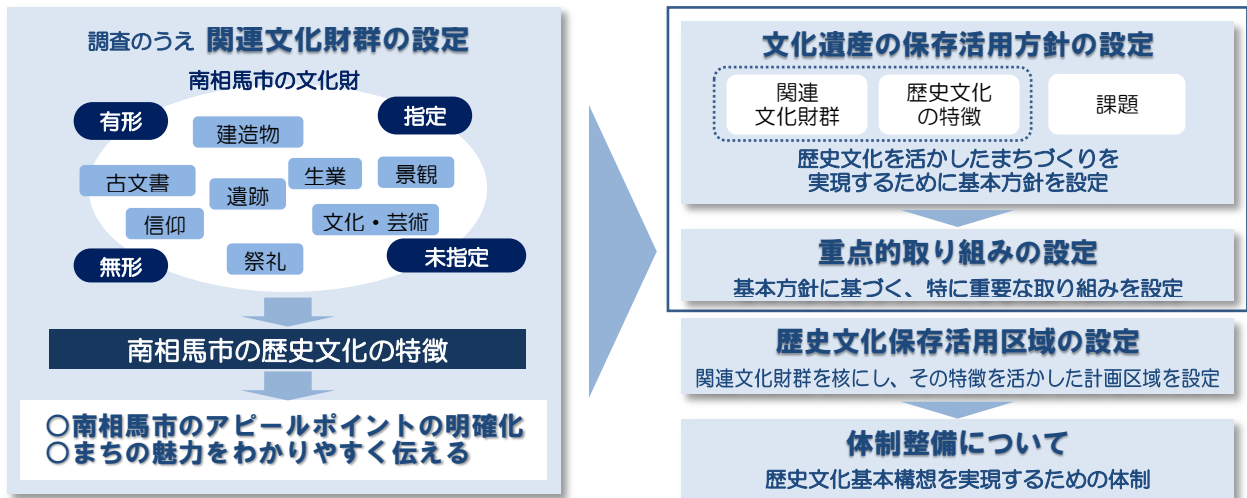
◆構想の位置づけ

- ✓ 本構想は、文化財とその周辺環境を含めて総合的に保存活用し、地域資源を題材とした、まちづくり、観光振興、学校・社会教育、市民活動等の施策を展開するための基本的な方針として策定する。
- ✓ 本構想策定後、本構想に基づき、個別の文化財の保存活用計画ならびに関連文化財としての具体的な保存活用計画を策定する。



歴史文化基本構想策定の考え方

- ✓ 歴史文化を活かした魅力的なまちづくりに向けた、歴史文化基本構想の策定にあたっての考え方を示す。



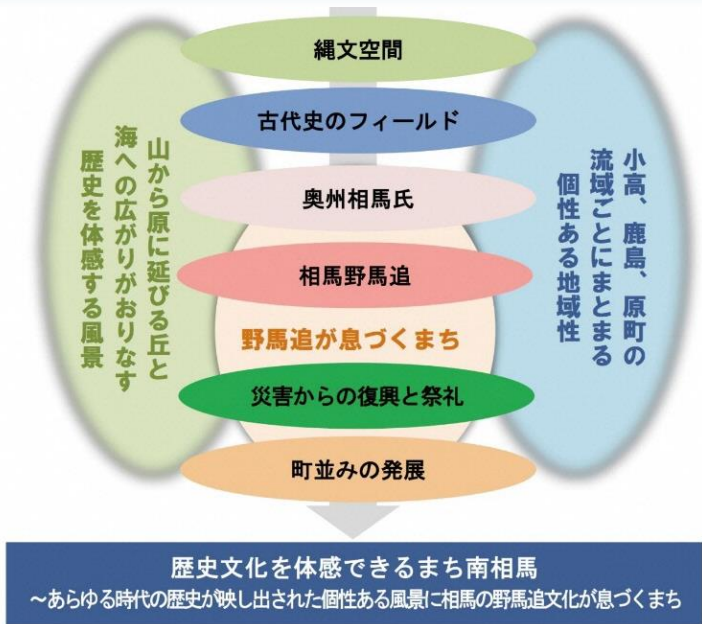
南相馬市の関連文化財群

◆南相馬市の歴史文化の特徴

- ✓ 広く市民の中に野馬追が息つきながら、あらゆる時代の歴史が自然と調和して、それぞれのまちの風景に溶け込んでいる。各地域の特色ある文化が体感できることに、南相馬市の歴史文化の特徴がある。

歴史文化を体感できるまち南相馬
～あらゆる時代の歴史が映し出された個性ある風景相馬の野馬追文化が息づくまち～

- 奥州相馬氏の歴史と武家文化が息づく、地域を象徴する野馬追文化
- 山から原に延びる丘と海への広がりがありなす歴史を体感する風景
- 小高・鹿島・原町の流域ごとにまとまる個性ある地域性



◆南相馬市の関連文化財群

✓ 一つの文化遺産ではなく、関連性もったストーリーとして6つのテーマにして南相馬の文化遺産の魅力を提示する。

1 海と森の暮らしを感じる縄文空間

～縄文人の豊かな海と森に育まれた文化を伝え、学べるふるさと～

【キーワード】

縄文から続く海・川・森に育まれた暮らし、福島県有数の貝塚集中地帯、貝塚は縄文のタイムカプセル、旧井田川浦、浦尻貝塚、民俗資料、自然に育まれた生活文化を学ぶ縄文空間



浦尻貝塚で発掘された骨（小高区）

2 古墳・官衙・製鉄・石仏がいざなう古代史のフィールド

～南相馬のはじまりを伝える、古代行方の7つの史跡～

【キーワード】

7つの国史跡、桜井古墳、真野古墳群、羽山横穴、泉官衙遺跡、大悲山の石仏（観音堂石仏、薬師堂石仏、阿弥陀堂石仏）、横大道製鉄遺跡、古墳からみた現代の地域につながる河川ごとの豪族支配、律令制による「行方郡」、南相馬市につながる地域のまとまりの確立、律令国家の重要な基幹事業「製鉄」、古代を学ぶフィールド



桜井古墳（原町区）

3 奥州相馬氏、戦国大名としての発展から中村藩主へ

～文化遺産が語る、奥州相馬氏の領地支配の姿～

【キーワード】

奥州相馬氏による行方郡支配、明治維新までの約680年間、国替えがない相馬重胤が陸奥国行方郡に移住、戦国大名、80ヶ所に及ぶ城跡・館跡、小高城・牛越城、同慶寺の相馬家墓地、在郷給人、旧武山家住宅



小高城跡（小高区）

4 今なお受け継がれる武家文化－相馬野馬追

～奇跡的に伝わる武家文化と、広大なスケール感を垣間見る文化遺産～

【キーワード】

江戸時代の野馬追と明治時代以降の野馬追、野馬懸、上げ野馬神事、広大な野馬追原（野馬土手、木戸跡）、奇跡的に伝わる武家文化、領主相馬氏の旧中村藩内で行われる武家行事、地域住民に根付く野馬追文化



相馬野馬追の「御行列」

5 復興を支えた報徳仕法と移民、そして祈りをささげるまつり

～互助と地域のつながりによる災害からの復興～

【キーワード】

天明の飢饉、移民、浄土真宗、天保の飢饉、報徳仕法、富田高慶、「至誠」「勤労」「分度」「推譲」、互助と地域のつながり、ため池などの造成と整備、獅子神楽、田植踊、民俗芸能、浜下り行事、災害からの復興



七千石用水路（鹿島区）

6 鉄道の開通によって加速された近代の町並みの発展

～鉄道が運んできた文化と産業発達により形成された時代の積み重ねる町並み～

【キーワード】

鉄道の開通、浜街道の宿場町からの発展、相双地方の物流拠点・原町、時代の積み重ねが見える町、無線塔、陸軍飛行場、羽二重産業による小高の発展、最先端の様式・意匠・技術を取り入れた町並み、産業や物流を背景とした町並み



浜街道の町並み（原町区）

文化遺産の保存・活用の基本方針

◆基本方針

- ✓ 南相馬市の歴史文化の特徴や文化財の保存活用の課題を踏まえ、歴史文化を活かしたまちづくりに資するために、次のとおり文化遺産の保存活用の基本方針を掲げる。

みんなでつくる歴史文化を体感できるまちづくり

基本方針1 みんなで取り組む誇りあるふるさとづくり

- 文化遺産の価値と意義を行政と市民が共有し、市民の文化遺産に関わる活動を促進する。
- 豊かな地域文化を醸成し、市民が誇りを持つふるさとを創生する。

基本方針2 豊かな地域の魅力を体で感じる

- 多様な価値観に根ざした市民の目線を踏まえ、相馬野馬追などの文化遺産の魅力を体で感じる機会を増やす。
- 史跡公園の整備や歴史ある景観づくり、魅力的な観光ルートの設定など文化遺産と自然環境が一体となった歴史文化に触れる場を拡充する。

基本方針3 身近な地域の歴史文化に親しみ、楽しむ

- 博物館や学校教育などで震災からの復興を含めたふるさと教育を促進する。
- 南相馬市の歴史文化を市内外に広く情報発信することや文化遺産を通じた楽しいイベントを開催し、あらゆる世代や立場の人が文化遺産に親しむ機会を創出する。

◆重点的取り組み

- ✓ 基本方針を受けて、市民や行政が行う文化遺産保存活用にかかる重点的な取り組みを、以下の7項目に設定した。

取り組み1 体で感じる文化遺産 ～文化遺産と周辺環境を一体的に保存活用する～

- 本質的価値を分かりやすく伝える文化遺産の整備。
- 文化遺産と周辺の自然環境と一体となった整備。
- 身近な地域の文化遺産に触れる機会の創出。



取り組み2 野馬追文化の体感 ～相馬野馬追をいつでも感じることができるまちづくり～

- 相馬野馬追の豊富な情報を発信する核となる機能を創設。
- 相馬野馬追の行列が通る地域を中心に、野馬追文化を感じられるような環境を整備。
- 相馬野馬追に関連する文化遺産の魅力を伝える。
- 相馬野馬追の情報を発信する市民の身近な取り組みを促進。
- 相馬野馬追の後継者の育成。
- 相馬野馬追の魅力である馬事文化に触れる機会を創出。



取り組み3 市民と一緒に保存活用する仕組みづくり

- 行政と市民が担い手となった文化遺産保存活用の仕組み構築。
- 市民ボランティアの育成。
- 市民の文化遺産を通じた活動の相談窓口の設置。
- 市民による文化遺産の保存活用を情報発信。
- 文化遺産を通じた新しいコミュニティの形成。



取り組み4 訪れて楽しい観光ルートづくりと環境整備 ～多様な視点を活かした魅力づくり～

- 小高・鹿島・原町の3区の特徴を活かした歴史文化観光ルートづくり。
- 拠点的な位置付けとなる文化遺産に、駐車場や案内板等の便益施設を設置。
- 観光ルートや環境整備について、行政の各部局と市民が連携した取り組みを実施。



取り組み5 子どもから大人まで触れる・楽しめる文化遺産 ～文化財に親しめるイベント開催や学習の充実～

- 多様なターゲットに向けた五感で楽しみ親しむことができるイベント開催。
- 文化遺産に関わる講座や説明会の開催。
- 学校教育・生涯学習へ文化遺産を積極的な活用。
- 南相馬市の歴史などを伝えるガイド育成。



取り組み6 いつ来ても学べる魅力ある博物館づくり

- 相馬野馬追を主軸にした総合博物館として、展示の工夫や改善。
- 文化遺産に係る市民活動の情報収集・発信できる拠点づくり。
- 東日本大震災を伝える資料を記録し後世に継承する機能を強化。
- 不足している文化財関連収蔵庫の新設など、文化財の保存についても機能強化。



取り組み7 東日本大震災と福島第一原子力発電所事故からの震災復興

- 浜下り行事などの祭礼や民俗芸能、文化財の清掃等の地域活動の支援。
- 東日本大震災を伝える資料を記録保存し、今後のまちづくり、防災教育、歴史教育への活用。
- 震災の記憶をあらわす文化遺産と周辺を一体的にとらえた環境を保全。



◆区域の保存活用方針

①相馬野馬追と武家文化が息づく空間を感じるゾーン

方針：野馬追と南相馬の文化を発信するまちづくり

- 歴史的建物を保存・活用し、歴史が積み重なった町並みの魅力を発信。
- 報徳仕法や野馬追の変遷を知ることができる解説板などを設置。
- 旧武山家住宅に武家文化や昔のくらしが体感できる機能を追加。
- 博物館機能の充実。



野馬追通り御行列の様子（原町区）

②奥州相馬家のふるさと「小高」の歴史を感じるゾーン

方針：相馬氏のあゆみと小高の文化が息づくまちづくり

- 相馬小高神社、同慶寺を中心とした環境整備、解説機能の充実。
- 個性ある建物や独特の町並みなどの文化遺産を活かした活動促進。
- 島尾敏雄など小高の文化人に関わる文化遺産の情報発信。



相馬家墓地（小高区）

③真野川流域の豪族と「北郷」の文化を感じるゾーン

方針：歴史ある「真野のかや原」を体感できるまちづくり

- 真野古墳群を心地良い緑地空間として整備。
- 横手古墳群などの史跡と相馬野馬追の活用を含めた歴史ある環境整備。
- 市街地周辺の文化遺産を楽しくめぐることができるルートを整備。



横手古墳群（鹿島区）

④新田川河口に登場した古代王権・古代国家の遺産を感じるゾーン

方針：古代の史跡と田園風景が調和したまちづくり

- 古代の歴史を体感できるように泉官衙遺跡や桜づつみ公園の環境整備。
- 桜井古墳公園と泉官衙遺跡などの文化遺産を連携した観光・学習プログラムの作成。



桜井古墳公園（原町区）

⑤森に囲まれた古代の文化を感じるゾーン

方針：森にたたずみ古代文化にふれるまちづくり

- 大悲山石仏を核とした山林の景観など多様な構成要素を生かした環境整備。
- 大悲山石仏を観光スポットとして位置づけ、イベントなどの開催によるその魅力の情報発信の促進。
- 横大道製鉄遺跡の解説機能の充実。



薬師堂石仏（小高区）

⑥見晴しのよい丘から海風と縄文文化を感じるゾーン

方針：豊かな海と人のくらしを伝えるまちづくり

- 浦尻貝塚の周辺環境を含めた整備。
- 旧井田川浦周辺を地域全体の文化遺産を見学できる案内ルートを設定。



震災前の浦尻貝塚からの眺め（小高区）

⑦ 中通りにつづく自然豊かな塩の道を感じるゾーン

方針：塩の道を通り、新緑と紅葉を楽しむまちづくり

- 歴史ある建物の保存活用と良好な集落景観を保全していく地域活動の促進。
- 真野川渓谷、塩の道の古道を主なスポットとした観光ロードとしての積極的な周知。



塩の道に面する大谷家住宅（鹿島区）

⑧ 震災の記憶と浜下り行事の風景が重なった人々の祈りを感じるゾーン

方針：災害から復興する人の祈りを伝えるまちづくり

- 海老浜のマルバシヤリンバイ自生地など、震災の記憶を含めた地域のあゆみを感じることができる風景を保持。
- 浜下り行事を中心とし、地域のつながりを保つ仕組みづくりや実施団体の支援、奉納される民俗芸能の後継者育成。



北右田のタブノキ（鹿島区）

◆文化財の保存活用推進のための体制整備の方針

✓ 南相馬市の歴史文化を活かしたまちづくりを、本構想をもって実行力のあるものとするための体制整備を図る。

① 市民と連携した体制の構築

- 行政だけではなく、市民が自ら楽しみ、学べるような、ボランティアガイド育成などの仕組みづくりなど、市民と行政が一体となって実施できる体制を構築する。

② 文化財の継承者・支援者の育成

- 民俗芸能や、南相馬市を代表する相馬野馬追の担い手などを育成する。
- 文化遺産を地域住民が自ら保存活用する取り組みを支援し、住民が誇りを持てる地域づくりを推進する。

③ 他自治体との協力体制の充実

- 南相馬市の歴史文化をきっかけに他自治体とつながり、情報共有による意識向上や調査研究の深化に役立てる。
- 南相馬の歴史文化の特徴をより明確化することで、さらに興味関心を引出し、市域を超えた協力体制を充実させる。

④ 他部局との連携体制の構築

- 文化財行政だけではなく、観光、都市計画、学校教育部局など、多方面の部局と連携する。
- 連携体制を構築することで、相乗効果を生み出し、市全域の歴史文化のまちづくりに関する取り組みを底上げする。
- 各地の生涯学習センターを通じた文化遺産の情報発信を実施する。

【主な連携の取り組み】

- 文化財部局、観光部局、市民が協働した観光ルートづくり。
- 文化財部局と学校の意見を踏まえた手引きづくり

⑤ 文化財行政担当の役割の明確化

- 各担当の役割を明確化し、不足しているものについては新たに部門を新設するなど、文化財保護体制の充実を図る。
- 博物館について、既存の調査研究、資料収集、教育普及活動のほか、市民ボランティアガイドの育成や、相馬野馬追を通年にわたり知ることができる常設展示の改修など、一層の機能充実と強化を図る。